

授業科目名	子ども家庭福祉	担当教員名	山下 智佳子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	保育の本質・目的の理解に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 2単位 (30時間)	授業方法/担当形態	講義 / 単独
開講学年/学期	3年 前期 (1-2期) / 年間開講数 1講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 児童相談所で児童福祉司として従事したほか、福祉事務所や社会福祉協議会での実務経験を活かして、具体的に実践的な授業を行っている。
授業の概要及び全体目標	子ども家庭福祉の理念を理解し、子どもの権利擁護について学習する。 子ども家庭福祉にかかる法体系や制度・施策について学ぶ。 特に、子育て支援や子ども虐待などに焦点をあて、子ども家庭福祉の現状と課題について理解を深める。		
到達目標	子ども家庭福祉、子どもの権利擁護、子育て支援を一環したテーマとして、以下の5点を到達目標とする。 1.現代社会における子ども家庭福祉の意義、子ども家庭福祉の一分野としての保育について説明ができる。 2.現代社会における子どもに関する諸問題について主体的に考えることができる。 3.子ども家庭福祉の歴史の変遷を説明できる。 4.子ども家庭福祉の制度や実施体系等を踏まえ、子ども家庭福祉の現状と課題を説明することができる。 5.子どもの権利擁護について、自分の考えを述べることができる。		
テキスト	「最新 保育士養成講座 第3巻子ども家庭福祉[改訂1版]」 柏女露峰・澁谷昌史・伊藤嘉余子 編著, 2022, 全国社会福祉協議会		
参考書・参考資料等	授業内で適宜紹介、配付する。		
成績評価の方法	授業参加態度 : 15% / 課題シートの提出 (毎回) : 45% / 理解度・到達度チェック : 40%		
授業外 (事前・事後) 学習の方法、オフィスアワー等	授業時に配付した資料とテキストで、毎回復習し、疑問点などを整理しておきましょう。授業時に課題シートに書かれた質問には、次の授業で回答しますが、それに加えて質問や意見があれば発表してください。 次回の授業に向けては、テキストを読んで予習しておいてください。日ごろから、子どもや子育て家庭に関するニュースなどにも関心をもって、授業に臨んでください。		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	オリエンテーション 保育と子ども家庭福祉	1	
第2回	現代社会と子ども家庭福祉	1,2	
第3回	子ども家庭福祉の概念と理念	1	
第4回	子ども家庭福祉の歴史的展開	3	
第5回	子どもの権利擁護に関する取組の現状と課題	1,2,5	
第6回	子ども家庭福祉の法体系	4	
第7回	子ども家庭福祉の実施体制	4	
第8回	理解度・到達度チェック① 児童福祉施設	4	
第9回	子ども家庭福祉の専門職	4	
第10回	子ども家庭福祉の現状と課題 (少子化と子育て支援・母子保健・子どもの健全育成)	2,4	
第11回	子ども家庭福祉の現状と課題 (多様な保育ニーズへの対応・障害のある子どもへの支援)	2,4	
第12回	子ども家庭福祉の現状と課題 (児童虐待・DVとその防止)	2,4	
第13回	子ども家庭福祉の現状と課題 (社会的養護・少年非行等への対応)	2,4	
第14回	子ども家庭福祉の現状と課題 (ひとり親家庭、貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への支援)	2,4	
第15回	理解度・到達度チェック② 子ども家庭福祉の動向と展望 まとめ	1,2,4,5	